

9月号

いっしん

令和5年(2023年)

第463号

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市

加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝 TEL/FAX 0995-62-2895

Mアドレス hittobe.konkaji@gmail.com (HP) <http://kajikikon.konjiki.jp/> 《HPの「いっしん」はカラーで見れます》

真心の
ただひと筋に
祈れかし
身の事どもは
神にまかせて
甘木親教会
初代教会長
安武松太郎師神教

教祖様140年／四神様130年／三代金光様60年／小倉教会布教138年／甘木親教会布教119年／

教祖140年記念 御本部 生神金光大神御大祭 参拝 9月30日(土)～10月1日(日)



少年少女会「七夕」 7月23日(日)

少年少女会例会

七夕

(たなばた)

七月二十三日

鹿児島県に梅雨明け宣言が出された七月二十三日(日)、加治木教会では少年少女会「七夕」例会が開かれました。

五節句のうちの「七夕(しちせき)」の節句は、「笹の節句」とも言われ、短冊に願いを込めて飾ると願いがかなうと伝えられるゆかしい伝統文化を楽しく学びながら、少年少女会を開かせていただきました。

少年少女会の「開会儀礼」も小学校の学年が進むにつれ、だんだんときちんとできるようになってきたことが、このところよくわかるようになってきました。

開会儀礼のあと「鬼のパンツは破れない」の振り付けソングで気持ちをほぐしてから、紙芝居では、「七夕」(たなばた)について、また、いじわるよりも親切をつくす方が楽しい心になることを学ばせていただきました。

(次のページにつづく)

少年少女会「七夕」… P1～2
お知らせ … P7

「お育てを頂いて」吉田幸一先生講話… P3～6
教会行事… P 8

少年少女会例会

七夕

(たなばた)

七月二十三日

色紙で七夕飾りを作り、短冊に願
いごとを書いたものを笹に飾り付け、
笹の枝がだんだんときれいにでき上
っていききました。

少年少女会は、子供たちだけのお楽しみの行事ではありません、家族全員で信心に取り組み、信心が育ち伝わって行き、末の末まで真に助かっていく尊い願いがあります。

*

紙芝居の「ねがい」とは、ないしよのひみつ」という作品は、へ七夕の短冊に、願いや夢を込め、豊かで深い創造力を養って行こう! という願いの込められた楽しいお話でした。

また「はしの上のおかみ」という作品では、一本丸木橋でいじわるをしていた才力ミが親切な心に変わって行ったお話しでした。子供たちにとっては身近に起こりがちなことだったのでしょいか、みんな熱心に見入っていました。



「お育てを頂いて」

吉田幸一先生 講話 ㊦

(熊本県・隈庄教会長)

令和五年五月七日 加治木教会
天地金乃神御大祭 講話

十二、◆プログラム作り◆

子供たちが学校に行って、教会でこういうことがあったと言えるようなプログラム、いわば教会に来ていない子供たちが「もししたらそこに参加できるの」と羨まれるようなプログラムができるの、いだろつかと考えました。

当時の若先生（敏行先生）にも相談しながら考え、一つできたのは、教会めぐりのプロジェクトハイクでした。始めたのは私が大学生の頃でした。

最初に、秋月教会という教会でした。秋月教会まで車で連れて行き、そこから歩いて課題をこなしながら二日市教会まで帰るのです。いちばん困ったのはトイレでした。女の子もいましたので。

そのため、秋月教会から甘木教会に向かい、甘木教会でトイレをお借りし休憩します。そうして、交通量の多い国道を通らずに、車の通りの少ない旧道を通り二日市へと向かいます。

また、ちょうどその旧道の途中に夜須

教会がありまして、トイレを借りることができるよう計画をして、二十三キロメートルを歩くというハイクでした。女の子がけっこう喜んでくれています、それが毎年続きました。それは昼間ではなく、夜に歩くので「オーバーナイトハイク」という名前でも募集しました。夕ご飯を頂いてお風呂も入って、教会まで送ってもらい、夜の九時頃からスタートして、途中でカップラーメンなどを夜食として頂いていました。



隈庄教会長
吉田幸一先生

そのようなプログラムで、ほかの教会では、吉井教会から歩きましたが、四十二キロメートルほどあります。途中、宮野教会、甘木教会と、教会を巡って帰るのです。いちばん遠かったのは杷木教会でした。四十七キロメートルありました。それをみんな楽しみにして、毎年続きます。

した。

久留米市内の、南久留米教会、久留米教会、宮ノ陣教会、筑紫本郷教会と、事前に位置などを調査し、スタート地点や休憩地点にさせていただきました。

みんな喜んでくれ、自分の喜びともなりました。

しかし、先の親先生（信雄先生）から「子供のガキ大将で何になるか！」とのお言葉を頂いたことがありました。

しかし、少年少女会の御用を以外には自分には何もありません。

少年少女会の行事の経験を重ねて行くと思えてくるものもあるのですが、自分自身のご信心が育つということはまた別物のようです。

朝起きがきつい、〈楽になったかな〉と思うと、信者さんが私に「先生は毎朝よく起きられるね」と言われると「毎日のことですからね」と答えるのですが、次の日から起きられなくなるなど、修業があるのです。

起きれないというように、神様のお試しのようなのがあるのです。すると「自分で起きていたんじゃないな、神様から起こしていただいていたんだ」と気付かせていただく、そのようなことの繰り返しでした。

慣れたと思ったら、そうではない〈神

様のおかげで」と気付かされるようなことでした。

十三、◆御本部の事務局で御用に◆
そのような時に、本部教庁に教務主導の「青少年室」というものができましたので、青少年少女会連合本部の事務局の局長に、前原教会の砂野先生が局長となられまして、若津教会の田中先生が次長となっておられました。

そうして、二日市の先生と前原教会の先生は懇意にしておられましたので、事務局の職員として要請されることになりました。

それから御本部の独身寮に住まわせていただくこととなり、平成四年の一月六日に布団と簡単な荷物をもって二日市教会のワゴン車で行かせていただきました。

その頃、青少年少女会連合本部は大変な時期を迎えているということを知ってはおりました。

大学生の時に「御本部で御用ができたから、青少年少女会が仕事になったらいいなあ」と思ったことがありました。

ある先生にそのことを相談したことがあります。すると「事務局は教会長先生や教師を相手に御用をするので、できれば教師になって連合本部に来てく

れると、たぶんあんたが助かるやろうね」と言ってお下された先生がありました。それで「へひとつ、自分も教師にー」という思いが芽生えたのです。「自分もずっとお道の御用ができれば、ましてや青少年少女会の御用ができれば」と思ったのが大学四年の時期でした。



毎日考えることが、青少年育成ということ、お道のこと、信心のことでした。アルバイトをしていた果物屋さんも信者さんで、大学のゼミの先生も信者さ

んで、進路を決める最終学年の時に、そのようなことが重なり、進路はほかには考えられないようなことが起こってききましたので、金光学院に入らせていただき、教師とならせていただきました。連合本部事務局に行かせていただきまして、私は全国大会の担当になりました。

事務局長の砂野先生を中心に、食事のあっせんや、作品展・まごころ運動の受け付けなどの事務を担当していました。また、年代別キャンプの申し込みが官製はがきで届いていました中に、鹿児島県から一教会だけ参加する教会がありました。

「鹿児島県から、青少年少女全国大会に参加するだけでも大変なのに、三泊四日の年代別キャンプに参加するのか？」と驚きました。重い荷物を持つての参加です。それが印象深く私の中に残っていました。その教会が、加治木教会でした。星原さんという名前で、私は事務の担当なので、キャンプで顔を合わせるわけではないので顔を覚えていたわけではありません。

参加者は、何県の何教会の誰々と、名簿を作り印刷していましたが、眼にするわけです。

昔、年代別キャンプに参加した方々が

大人になって、子供さんが育って、またその子供さんが参加されるということもありました。私もへ自分も子供ができれば、年代別キャンプに参加させたいな」と思うようなことでした。

十四、◆年代別キャンプで◆

その年代別キャンプの感想文は、少女会連合本部の機関紙『わかば』に掲載されましたが、そのデータをCD化された物が発行されていましたので、確か、星原君の感想文もあったな」と思って、その原稿を探してみました。すると、星原光太郎さんの感想文が見つかりました。

そして、アドベンチャーキャンプに星原可奈子さんという方が参加され、それ以前にも何人か参加されてありました。鹿児島県からですね、福岡県でも年代別キャンプへの参加者は少なかったのですが、それを姉弟で参加され、送り出される先生もそうですが親御さんも相当のお祈りがありであったと思います。

光太郎さんの原稿には「最初、年代別キャンプには、気持ちは進んでの参加ではなかった」ということでした「お母さんが参加したらためになるよと言ってくれた」ということでした。そして「参

加したら、楽しかったこと、苦しかったことが、ゴチャ混ぜになるになるような経験を一度にしたのは、あのキャンプが初めてだった」というようなことが書いてあります。

光太郎さんは、ジュニアキャンプには中学二年生の時で、友達の片平洋一郎さんを誘って一緒に参加したということも書いてありました。

そして、三泊四日の最終日に沙美の海岸（金光町から南方四キロメートル）に甘木教会の沙美研修所があり、そこをお借りして、着替えたりシャワーを浴びたりするのですが「沙美研修所に行って海水浴をしたのが楽しかった」と書いてありました。

最終日には、みんな仲良くなるのですが、その仲間になった友達と海水浴をしたりやスイカを食べたりしたことが想い出になったということです。

私も話しましたように、誰と行くか、誰と友達になるかですね。三泊四日はずいぶん長いので、素直で行かないと本来の自分が出るのです。

時にはぶつかり合うことやイヤな思いもありながら「ヤッター」という達成感があつて、みんなが協力しないとキャンプにならないのです。

班対抗のゲームや作業があり、協力し

てできた成果を見られ、そして表彰があるのです。毎朝のゲーム後にも優秀班が表彰され、リボンをもらい、班旗にいくつもリボンを付けていくのです。

また「きつかったとは、リーダーの指導の通りのことができないこと」ということでした。

リーダーが、快適な生活ができるために、こうしたら良い、ああしたら良いと評価をされるのですが、技術が伴わないとか、いくつかのプログラムをこなさなければならぬことがあり、時間が間に合わないとかでやれずに、キャンプ生活が十分とこのわず、評価されなかったなどで、肉体的というより精神的につらかったようです。

しかし「良い経験をさせてもらいました」また「そういう指導をしてくださるスタッフはすごい」ということ『わかば』に投稿してくださっていました。

私は、会員としては参加できませんでしたが、シルバーバッチ研修所というコースで指導方法や意義などを勉強し、のちにリーダーとして御用させてもらったことがあり、リーダーとして御用させていたいただきましたが、大変貴重な体験をさせていただきました。

そのような貴重な体験のために、鹿児島県から参加されるのを有り難いこと

だなと思っていました。

十五、◆隈庄教会での御用◆

最後に、隈庄教会のことについてお話しさせていただきます。

少年少女会連合本部で御用させていただいている時に、隈庄教会の先生が、御本部の御大祭参拝の折に七階に事務局のある本部教庁の一階のロビーで、娘さんと初めて会いました。私もその時、三十四才でしたから、選べる年齢でもありませんでしたし断る理由もありませんでした。

そこをご縁に、最初に会ってから、一年間をかけ四回会って、結婚を決めさせていただきました。そうして、今月の五月二十九日で三十年にならせていただきます。

隈庄教会の前の先生は、正喜(まさき)先生と言います。亡くなられて十年になります。今年の二月五日に十年祭を仕入らせていただきました。

その正喜先生と家内の、父娘の話で、家内が小学生の時の教会での話です。

学校の上靴の親指のところから穴が開いて、いろんなところに穴が開いたので、お母さんに「上靴に穴が開いたから買って」と頼んだら「よう辛抱して履いたね、親先生にお届けしておいで、親先

生のお許しが出たら買わせてもらっていいから」と言われたということです。

そうして、正喜先生のおられる御結界に行って「お父さん、上靴に穴が開いたから買っていいですか?」と尋ねると「持ってきてごらん」と言われたのですが「お父さん、もう汚いから捨てようと思ってるから」と言うのと「いいから持っておいで」と言われたので持って行ったそうです。



隈庄教会長 吉田幸一先生

すると「裏にちょっとおいで」と言って連れて行き「洗おうね」と言われたそうです。そこで家内は「お父さん、これは履けないし捨てるのだから新しいのを買ってと言ってるんだけど」と言うのと「わかった、でもこの上靴は、今日の今日まであんたが履いて、足を守って下さった上靴よ、最後は使わせてもらったのだから、上靴さんありがとうという真心

を込めて、できるだけいいから、きれいに洗ってから処分させていただく」とが大事よ」と言われたそうです。

家内もお父さんの真剣さが分かって、一緒に洗ったということです。それ以来、汚れておったら、お礼の真心を込めて洗ってから捨てるというようになったということです。

私と結婚してからは、家内が洗ってくれていましたが、長男が今二十四才で、吉田礎(いしづえ)と言います。

義父が「男の子が生まれたら、付けた名前がある」と言って「礎」と付けました。その長男の礎が、いつも靴を洗うのです。洗って、自宅の玄関の陽の当たる所に干しています。これは、家内が礎が小学生の時からずっと教えているのです。

その出発点は、正喜先生の「上靴を洗おうね」という教えがあるのです。娘の心に焼き付いて、そしてまた、孫へと伝わって、二十四才になるのですが洗っています。私は、それを見て「少年少女会があるとかないとかではなくて、子供がどう育つかで、青少年育成はそういう親子の間柄であればできるのではなからうか」と思うようになりました。

私は隈庄教会に行って「早く少年少女会をー」というところに、あまりにも力

を入れすぎました。

ある時、年配の信者さんから「若先生は、私たちの先生じゃないかもわからん」と言われました。

そのくらいのぼせていたと思います。

へどうしたら少年少女会ができるか、全国大会に参拝できるか」とばかり思っていました。

子供が育つということは、家庭だけでは育たない部分があるので、ほかの子供と一緒に育つということが、子供の年代には必要なのです。グループとか組織というものが必要なのです。

私は何も知らないままに、自分がお育てをいただき学んできた少年少女会という青少年育成に傾きすぎていたことに気が付きました。先ず、隈庄教会を知ってから、もちろんその間にも青少年育成はできるのです。

たくさんの子供とキャンプをしたり、どこかに出かけるということはできませんが、親と子が受験のお届けに來たり、病気の時にお届けに來たりする中に信心でつながって行くところを見て行かねばならなかったと思います。

息子の姿を見て「そっくり信心のありようがあるんだな、そういう青少年育成があるんだな」と頂き直しているようなことであります。

(おわり)

あしあと

加治木教会行事記録

8月

- 1 (火) ●報徳月例祭 10時半
- 6 (日) 少年少女全国大会 (還拝)
- 9 (水) 清掃御用 10時
- 10 (木) ●月例祭 (主神祭、併せて10時半)
- 18 (金) 19 (土) 甘木婦人教師会
- 19 (土) 20 (日) 全国信徒会教祖140年特別研修会
- 21 (月) 清掃御用 10時
- 22 (火) ●月例祭 (天竺、共 励会13時半)
- 25 (金) 連女性教師会 (鹿児島)
- 27 (日) 連夏のつどい (鹿児島)
- 31 (木) 清掃御用 10時

九月のご霊神様のお立日

- 中島時彦之霊神 昭和62・09・02
 - 平島信彦之霊神 昭和20・09・03
 - 前田満之霊神 昭和42・09・03
 - 庄村ミサ之霊神 昭和42・09・05
 - 桐野仲太郎之霊神 昭和10・09・09
 - 汰木スエ之霊神 昭和55・09・12
 - 平島道雄真道別彦之霊神 昭和09・09・20
 - 大重美知子刀自之霊神 令和2・09・21
 - 大重為廣之霊神 昭和24・09・22
 - 汰木節夫之霊神 平成27・09・22
 - 西本ハル子之霊神 平成17・09・25
 - 桐野整之霊神 昭和45・09・28
- 「先祖のご霊神様の、現世・幽冥かくりよでのお働きあつての今日の私たちであります。立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げます。教会では、十日の月例祭で、霊前での玉串の奉てんを準備しています。」

感 詠 (教会長)

大願のかかれる神慮その奥にあるものを覗く心の眼(まなこ) 取り組み表お礼申して確かめる 恵みの中に生かされおるを

記録して忙しき日に忘れ去る お礼の心少なからざり

親と子でわずかずつでも取り組みて かさねる稽古身につく願う

事あるは千載一遇この人と 神や先祖(みたま)の願いそそがれ 不自由であればあるほど深きもの 神の恵みと親の祈りは

いかほどに深く広きは計られぬ み親の神を人の心で



九月三日(日)

午前十時～十二時半

鹿児島地方教会連合会

女性の集い

講話・北園舞氏(串木野教会)
場所・勤労者交流センター

九月二十三日(祝)十時半より

秋季霊祭奉仕

祭典後、教話。

※霊祭申込用紙をご記入の上御結界へ
お届け下さい。

九月三十日(土)～十月一日(日)

御本部 教祖百四十年

生神金光大神御大祭

参拝

交通機関～マイクロバス
宿泊先～光風館
旅費～二二〇〇円ほど

教会行事

9月

1(金) ●報徳月例祭 10時半

3(日) 連女性をつどい 10時

9(土) 清掃御用 10時

10(日) ●月例祭(生神金光 併せ) 10時半

16(土) 連青年のひろば

19(火) TSC 交流会・会場・甘木教会

20(水) 甘木親教会御用(教会長)

21(木) 清掃御用 10時

22(金) ●月例祭(天地金 併せ) 共励会 13時半

23(祝) ●秋季霊祭 10時半

30(土) 御本部御大祭参拝

10月

1(日) 御本部御大祭参拝

3(火) 清掃御用 10時

4(水) ●報徳月例祭 10時半

9(祝・月) 清掃御用 10時

10(火) ●月例祭(生神金光 併せ) 10時半

15(日) 人吉教会御大祭 11時

21(土) 清掃御用 10時

22(日) ●月例祭(天地金 併せ) 共励会 13時半

29(日) 多良木教会御大祭 11時

31(火) 清掃御用 10時

※《未定行事》青年会・若婦人会

バンド練習!

来年は、甘木親教会の布教120年記念大祭です。四年前の記念祭では「よろこびの集い」で「甘木布教賛歌」を演奏させていただきました。そろそろ練習を開始しましょう!

まぐころ運動

折り鶴 七五三羽
古切手 一〇八枚
古テレカ 一枚
鉛筆 一六本 集まりました。

ご協力ありがとうございました。折り鶴は、わかば祭にお供えされ、広島・長崎の平和記念公園に贈られます。

KOKOKYO 金光鹿児島地方教会連合会・青少年育成協議会

青年のひろば

9/16(土) 18:00～

○講話・懇談
講師…都城教会 森原隆治郎 先生
講題 「神様が見えたか」
— 祈りの中に生かされて —

9/17(日) 10:30

○朝御祈念・研修

場所…鹿児島教会
対象…若者(高校生以上)
参加費…2日間(泊):1000円・1日:500円
持ってくる物…寝袋(or毛布)・洗面具・拝詞集・筆記具など
※飲み物等々の差し入れ大歓迎!

プログラム
9/16 1800 開会式
(土) 1810 講話・懇談
2030 懇談会
9/17 600 朝御祈念
(日) 630 開会式
930 懇 談
1030 祈 念